

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	①重点研や研修会を通して、主体的で対話的な学びにつながる授業改善を行い、3つの資質・能力の育成を目指していく。 ②ロイロノートを活用した授業作りに取り組み、各学年に合わせたICTの活用方法や視点を作成する。また、ICTを活用した授業実践を積み重ねる。
担当	知部会

学力向上に関わる本校の状況
<p>昨年度の学校評価アンケートでは、多くの児童が進んで学習に取り組んだり、もっと知りたい調べたいと意欲的に学んでいる状況である。また、たくさんの友達の話をよく聞こうとしている児童も多くいる。保護者アンケートでも、児童アンケート同様、多くの児童が学習に意欲的に取り組んでいるという結果がある。また、「授業の工夫をしている」「質の高い授業づくりを行っている」と高い評価でもある。一方で、児童・保護者アンケートの両方で、意欲的に学習に取り組めていない割合が2割である。「思わない」割合を減らし、「とても思う」をさらに上げて、子どもたちが生き生きと本気に学べる授業作りに努めるよう考察した。</p> <p>生活科・総合的な学習の時間を中心に、自分たちの思いや願いを大切にしたい単元作りを伝統的に続けている。舞岡公園を中心とした自然豊かな地域の材から学びを深め、地域の良さや地域を愛する心を育てている。その教育活動の中で、「主体性」「協働」「伝え合い」の3つの資質・能力の育成に努めている。</p> <p>ここ数年、積極的に自分の考えを伝える場や活動が限られてしまい、伝え合う良さや面白さを感じられる学習活動が必要である。さらに、表現活動を発展的に次の問題解決学習につなげる探究的な学びにする実践も少ない。体験・表現・振り返りの時間を常に意識して思考する時間を大事にしていき、協働的な学びの実現を目指していきたい。</p> <p>昨年度から、タブレットを活用した学習を全学年始めることができ、ICTを活用した学びの良さを実感することができた。しかし、児童の発達段階に合わせた活用方法や視点を検証したり実践を重ねたりできていない。ICTの活用は、3つの資質・能力の育成に迫る対話する活動の手立てになる。協働的に学ぶための強力な学習用具として位置づけている。</p>

今年度の目標
①3つの資質・能力を意識した授業改善・実践を行い、具体的な子ども姿で資質・能力を明らかにすることができる。②年間通してロイロノートを活用した授業作りに取り組み、活用方法や視点を明らかにすることができる。

目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	<ul style="list-style-type: none"> ●年度初めには、クラスごと生活科では、春の単元を始めること、総合では、単元を立ち上げことを同時期に行う。 ●単元立ち上げシートやウェビングを活用した単元構想作りを行い、ねらいをもった体験や問題解決学習をする。 ●対話的な学びの一つである話し合いを中心とした授業作りに取り組むために、学年ごとに話す・聞く視点を意識した授業を行う。 ●「主体性」「協働」「伝え合い」の3つの具体的な姿を研究協議会で話題とする。 ●ロイロノートを活用した授業実践をする。
下半期	<ul style="list-style-type: none"> ●生活科・総合的な学習の時間での単元の終末を考え、子どもの成長を見とり、研究の成果を作る。 ●対話的な学びの一つである話し合いを中心とした授業作りに取り組むために、学年ごとに話す・聞く視点を意識した授業を行う。 ●「主体性」「協働」「伝え合い」の3つの具体的な姿を研究協議会で話題とする。 ●ロイロノートを活用した授業実践をする。 ●ロイロノートを活用した授業作りの成果・課題を議論し、情報活用能力を育成するための大まかな視点や方針を立てる。